

1. 評価結果概要表

作成日 2008年7月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0870400231		
法人名	医療法人 浩悦会		
事業所名	グループホーム 南風		
所在地 (電話番号)	茨城県古河市坂間185-14		(電話) 0280-47-0315

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年4月30日	評価確定日	平成20年9月29日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成	14年	9月	6日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15	人
職員数	17 人	常勤	6人, 非常勤	人, 常勤換算 11人

(2)建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築 /改築
建物構造	鉄筋造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	26,350 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,350 円	

(4)利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	15名	男性	3名	女性	12名	
要介護1	3名	要介護2	3名			
要介護3	5名	要介護4	4名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	84.6歳	最低	75歳	最高	96歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	はまだクリニック 友愛記念病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム南風は、住宅街に位置し、近隣には診療所や介護療養型入院施設、商店街がある。2階建ての建物であるが、エレベータを使い、1階2階の行き来が自由に出来、ご近所づきあいができるようになっている。職員は、1階2階ともなじみの関係になれるようなシフト体制になっている。利用者は職員に風習や常識など教えて、よい関係が保てている。共有空間には、畳や家具、置物など時への配慮もされ、落ち着いて生活できるよう工夫がされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	ヒヤリ・ハット用紙を改善し、職員全員が共通理解できるようにしてきた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	管理者と職員が、話し合いながら自己評価に取り組んだ。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	自治会に加入し、自治会の草取りやごみ拾いなどの行事には参加している。しかし、運営推進会議はまだ、開催されていない。職員間の会議で話し合い、サービスの向上に努めてきた。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	目安箱を設置したり、口頭で意見等いただいている。意見をいただいたときは、職員会議で話し合い、早期解決にむけて取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	町内会から、行事の参加要請があるため、出来る限り出かけるようにしている。施設内で夏祭り等開催する時には、町内会へ呼びかけている。散歩時、挨拶することで、顔見知りとなるよう心がけている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は開設当初からのものである。地域の中での理念の具体化について、職員間で話し合っている段階である。		地域の中で暮らし続ける理念の具体化を掲げ、サービスの向上につながることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議のときに職員と理念について共有していくよう、確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。4ヶ月に1回の自治会の行事に参加するようにしている。南風だよりを回覧してもらったりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員と話し合って評価をしている。評価をすることで、改善策を話し合う機会となっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催できていない。	○	自治会長、家族、市の福祉課等の方々を巻き込んだ会議が開催されることを期待したい。地域の意見を聞いていきたいと考えている。

茨城県 グループホーム南風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市からの講習会の依頼があり、市との連携が取りやすい。キャラバンメイトに参加している。市へ足を運び、情報を得るように心がけている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月、南風だよりを郵送している。また、面会時に状態を報告したり、緊急時には電話報告したりしている。預かり金などは、出納帳を家族に渡している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>目安箱には、苦情等が入っていない。口頭での意見が多く、直接、家族と話し合っている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動はほとんどなく、なじみの関係が築けている。異動、退職があったときは、きちんと伝えている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修は出来るだけ参加できるようなシフトになっている。研修後は、研修報告書をまとめ、勉強会をしている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>新設する施設の職員の研修の場として受け入れをしている。研修で知り合った方との交流があり、電話などお互いの情報交換をしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所はないが、日中通ってもらい、慣れていただくようにしている。また、家族の方にも見学していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生について、生きざま、おしゃれについて、戦争体験、稲の作り方等、利用者から学んでいる。また、毎日職員の顔を見て、健康管理に気を配ってくれ声をかけてくれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事の支度や掃除、洗濯たたみ等、利用者の希望、意向を聞き、出来るところまで行ってもらっている。利用者との思い、声かけ、対応の統一が今後の課題であると職員が感じている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日カンファレンスを持ち、話し合っている。介護計画は家族に提示し、意見・サインをいただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	サービス担当会議で、月1回の評価をしている。		日々の記録に、介護計画の評価内容が記載されていると、いつ話し合ったのかがわかりやすく、状態も把握できると思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	診療所等との連携をはかり、柔軟な支援を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の近接の診療所による往診を行っている。夜間具合が悪くなった時は、24時間、医師の指示をいただいたり、診察を受けることが出来るようになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについてはどこまでするか、個々の希望が違うため、あえて基準を決めていない。その都度対応していくことを考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の生活の中で、利用者の自尊心が傷つかないように配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が拒否されることは、無理にしないようにしている。時には言葉がけを変えたり、違う職員が誘導したりと支援している。あなたらしさを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の内容を変更したり、利用者の希望を取り入れたりとしている。食事中は会話を楽しみながら、穏やかな時間を過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回と決められているが、希望があればいつでも入浴できる。時間帯は、利用者の希望や生活習慣を大事にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日散歩したり、ホームの庭の草取り、外食等希望にあわせて支援している。髪を染めたい利用者がいれば、色を決めたりして染めたりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族の協力があり、外出する機会が多くなった。希望があれば、買い物につきあったりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけていない。夜間は防犯上のため、施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の避難訓練をおこなっているが、消防署は関与されていない。備蓄に関しては、現在はしていないが、今後検討していきたいと考えている。	○	家族や利用者、職員が安心した生活ができるように地域を巻き込んだ訓練を考えてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立は、栄養士がカロリー計算している。水分量に関しては、チェックされていないが、目安を決めて飲んでもらうようにしている。		水分量については記録用紙に追加してチェックしておく と利用者の症状の変化が理解しやすいと考える。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は自然の光が入り、明るい雰囲気である。季節の花が飾られ、手作りのカレンダーが飾られている。畳の空間には、茶だんす、人形が飾られ、落ち着いた環境で居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、仏壇や冷蔵庫、家で使っていたテーブルなどが持ち込まれて、家で過ごしていた時に近づけるよう工夫をしている。		